

平成30年度 第33回 福井県教育総合研究所 研究発表会 報告

「未来へつなごう福井の教育 - 変える勇気 変わる未来 -」

日時：平成31年2月15日(金)
10:30~16:20
会場：福井県教育総合研究所
福井県自治研修所

当研究所では、左記のテーマのもと、未来の社会を担う子どもたちをどう育てていくべきなのかを見ずえて、研究発表会を開催し、県内外から、235名の方々にお越しいただきました。
ご発表いただいた方々、ご参加くださった方々に厚く御礼申し上げます。

研究発表① 10:30~11:20

◆ 中高連携社会科授業研究 ◆



若手の先生方が時間外に他校の先生方と交流を深めている姿勢に感銘を受けました。

活動を通して目的意識が明確であり、複数の教員で練り上げていく姿をうらやましく感じました。

◆ Q-U検査を活用した不登校支援 ◆

特別支援学校における小集団クラスでの利用

生徒が過ごしやすいうらやましいクラスを作るためにQ-U検査というアンケート結果をデータ化する新しい試みを知ることができた。



不登校やいじめにあっていない生徒は少なくないので、ぜひQ-Uを利用し、早期発見、未然防止につなげたい。

研究発表② 14:00~14:50

◆ 英語ディベートを授業に取り入れるにはどうしたらよいか ◆

「培われる力の明確化」・「授業フォーマットの提示」を中心に
話す力・書く力だけでなく、読む力・聞く力の育成にも効果的であることを再認識しました。



学年やレッスンの内容に合わせてアプローチを使い分ける方法を学びました。

◆ 専門学科における横断的学習の在り方についての研究 ◆

～経済同友会との交流を通して～

ぜひ今後もこの活動を続けてほしいです。高校と地元産業界が協力して生徒の育成ができれば素晴らしいと思います。



企業と学校が交流して意見交換や情報共有できると、企業がもっと活発になると感じました。

◆ 授業改善プロジェクトチームが生み出した価値 ◆

校内自主研究会の在り方



学校全体で実践を共有したり、公開したりする場がたくさんあることに驚きました。実際にやってみる原動力がすばらしい。

無理や強制をしないスタンスがすばらしく、敷居が低いことが多い先生方の巻き込みや底上げにつながっていると強く感じました。

◆ 福井大学教育学部附属義務教育学校の新たな挑戦 ◆

全教科全領域で取り組む9ヵ年の協働探究カリキュラム開発

探究というものの大切さを最近強く感じており、具体的な実践事例をもとに、様々な可能性をお聞きでき、多くの学びがありました。



前期課程、後期課程の交流による主体性の育成を感じました。

◆ 小学校、中学校の授業づくりを支援する訪問研修の充実 ◆

学力調査の活用や授業改善に関する支援



今後、校内研修の内容等をよりよいものになるよう考えていくべきだと思います。そのためにこの研修はとても参考になりました。

全国学調の分析のポイント、授業改善の視点を教えていただきました。

◆ 地方創生を担う人材をはぐくむ教育の研究について ◆

子ども達の成長を中心に置き、自地域や他地域の課題等に取り組むこと、そのために教職員全員で取り組むことが必要だと分かりました。



3高校の先生方が実践発表を行いました。

各学校での地方創生の取り組みを聞くことができてよかったです。

◆ 中高の円滑な接続を実現する授業実践の研究 ◆

中高で、研究の視点と課題を共有して行った授業実践



実際に中学校と高校で行った授業を元に中高連携をどのようにしていったらよいかのかが分かりました。

中高接続、高校の授業改革が叫ばれている中、中高での教員どうしの交流が大切だと思いました。若い先生方が力を合わせて発信をリードしなくてはと思いました。

◆ 高校数学における授業改善の取組み ◆

ICTを活用した授業実践

細やかな指導と、試行錯誤されている様子が見え、共通の悩みを持つ立場としてとても意義深い発表でした。



シグノー法やICTを実際に活用している先生方の話や工夫・苦勞点が聞けて、自分のこれからの授業に活かしていきたいと感じました。

◆ 小中高における沿革配信を活用した理科教育の充実 ◆

実験配信で双方向の特性を生かした授業サポート



これから積極的に活用していきたい。連携して教材開発したい。

実際に実験配信を体験してもらいました。また、小中高の授業の目的やねらいに応じたコンテンツを紹介しました。

◆ 教育相談における「チーム学校」について ◆

チームとして学校の課題解決に取り組むプロセスを知ることができました。



新しいチーム学校で協働してすすめていくことが必要だと思いました。

「チーム学校」を実現するために必要なことについて、参加者と共通理解を図りました。

◆ 中学校における学校マネジメント ◆

学校組織マネジメントにむけたカリキュラム・マネジメントの実践



マネジメント研修のような実践型研修をこれから考えていきます。

中学校は学年部会や教科部会でマネジメントしていくような組織のつながりを意識していくことが大切だと感じました。

組織、カリキュラムマネジメントについて具体的な実践を聞ける貴重な機会となりました。

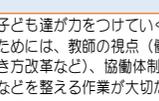
ポスターセッション 11:30~12:20

ポスターセッションは、自治研修所で行われ、約150名の方が参加してくださいました。全14のブースが設けられ、高等学校の実践発表や教育相談、外国語教育など幅広いテーマがあり、参加者の皆様には、関心のあるブースを自由に回っていただきました。発表は1回につき20分間(全2回)という短い時間でしたが、発表者と参加者が交流しやすい和気あいあいとした雰囲気があり、大変有意義であったとの声が多く聞かれました。



◆ 小学校における学校マネジメント ◆

学校組織マネジメントにむけたカリキュラム・マネジメントの実践



子ども達が力をつけていくためには、教師の視点(働き方改革など)、協働体制などを整える作業が大切だと思いました。

具体的な実践例を発表していただき参考になりました。本校でできる方法を探っていきたいと思います。

◆ 博物館見学 13:15~13:50 ◆

今回初めて開催された教育博物館の見学には、約70名の参加がありました。短い時間でしたが、解説を聞くことによって、幕末から受け継がれる福井の教育の先進性や、福井が生んだ教育者のことがよく理解できたという声が聞かれました。



◆ 高校・特別支援学校における学校マネジメント ◆

学校組織マネジメントにむけたカリキュラム・マネジメントの実践



PBL(課題解決型学習)への取り組み。様々な活動が生徒主体で行われており、感心しました。

組織づくりを自主研究会から始めるという取組み、働き方改革につながる可能性が理解できました。

講演会 15:00~16:20

「分かっているから分からないへ」
福井県教育総合研究所 特別研究員
川角 博 先生



講演会には、約200名の参加者で会場がいっぱいになりました。講演では映像を使った問題やグループでの協議など、参加者も主体的に参画できました。川角先生から「学習の芽を出させ、思考の過程を踏まえる学びが大切」というこれからの授業づくりの視点が示され、参加者からも今後の指針を得ることができたという声が多く聞かれました。